

定期報告（ウルグアイ内政・外交・経済：2025年7月）

【ポイント】

<内政>

- 7月に発表された当地主要世論調査結果で、政権支持率は44%であった。
- 2日、破綻が懸念された特定年金の救済・改革法案が両院で可決した。

<外交>

- 6日及び7日、オルシ大統領はBRICS首脳会合に出席した。
- 22日、サンチェス・スペイン首相が来訪しオルシ大統領と会談した。

<経済>

- 3日、メルコスール首脳会合でメルコスール・EFTA・FTA交渉妥結が発表された。
- 7月の消費者物価指数は4.53%を記録した。

【本文】

1 内政

（1）政権支持率等の発表

10日、当地主要世論調査会社のEQUIPOS社は、オルシ政権の支持率が44%であったと発表した。なお、4月から7月にかけて政権支持率は35%～45%程で推移しており、過去20年間の同時期の値と比べ低いものの、オルシ大統領個人に対する親近感は50%～60%程と高い。また、全14閣僚中、最も支持率が高いのは、ルステンベルグ保健大臣及びオドネ経済財務大臣で、最下位はメノニ観光大臣であった。また、3月に政権発足して以来、国民の関心事項に関する世論調査では常に第一位は他を大きく引き離して治安問題となっており、続いて、経済・雇用、教育、貧困・社会政策等となっている。

（2）特定年金の救済・改革法案が可決

2日、資金不足に陥り満額給付ができなくなっていた専門事業者年金（Caja Profesional）の救済・改革法案が議決した。最終的に、改革に伴う経費の国家負担を50%（政府原案では30%）に引上げ、残りを年金加入者及び受給者が負担することで与野党が合意に至った。ウルグアイの公的年金制度は、最も加入者が多く一般的な社会保障銀行（BPS）の他、それぞれの職業に応じて加入する軍人年金、警官年金、公証人年金、銀行員年金、専門事業者年金の合計6種類が存在し、国民はいずれかの年金に加入している。なお、今回、救済・改革の対象となった専門事業者年金は、大卒以上の自営業者（当館注：例えば、開業医、開業弁護士等）が任意に加入する年金で、継続的な加入者の減少が破綻の危機を招いた主な原因とされる。

2 外交

（1）オルシ大統領のBRICS首脳会合出席

6日及び7日、オルシ大統領は、BRICS首脳会合に主催国ブラジルの招待を受け出

席した。「多国間主義の強化、経済・金融問題、人工知能（AI）」を議題とする全体会議で、ウルグアイの国家AI戦略に言及し、全ての国に開かれた包括的AI戦略の重要性を強調した。また、BRICSの枠組みで、オルシ大統領は5か国首脳とバイ会談を実施した（エジプト首相、南アフリカ大統領、インド首相、ベトナム首相、アンゴラ大統領）。ラマポーザ南ア大統領は、本年11月に同国で開催されるG20首脳会議にオルシ大統領を招待した。また、モディ・インド首相は、在ウルグアイ・インド大使館の開設を発表。他方、チン・ベトナム首相は、メルコスールとの貿易協定交渉の早期開始を要請した。

（2）サンチェス・スペイン首相の来訪

22日、オルシ大統領は、ウルグアイを訪問中のサンチェス・スペイン首相と会談した。共同記者会見で、良好な二国間関係を基調として、領事、外交・文化、ジェンダー平等、治安及び国際組織犯罪対策の分野における協力合意への署名に至ったと発表された。一方、サンチェス首相は、ウルグアイが市民的自由、民主主義的価値、尊厳を有する模範的な国であると評し、また、世界最大の自由貿易圏の創設となるメルコスール・EU・FTAの実現により、開放（市場）のメッセージを発信する必要性を訴えた。また、首脳会談後、サンチェス首相は、元副大統領のトポランスキー故ムヒカ元大統領夫人を訪問し、故人への追悼の意を表した。トポランスキー元副大統領は、七回目となるサンチェス首相のラテンアメリカ訪問を評価した。

3 経済

（1）メルコスール首脳会合等

3日、オルシ大統領は、アルゼンチンで開催されたメルコスール首脳会合に出席し、メルコスール・EFTA（アイスランド、リヒテンシュタイン、ノルウェー、スイスで構成）FTA交渉妥結の成果を評価するとともに、「メルコスールの域内統合深化（当館注：ブラジルが主張）と現代化（当館注：アルゼンチンが主張。対外共通関税の例外品目リスト拡大等。）は相反せず、両者を達成することが可能である。」と強調し、ウルグアイは一層の市場を必要としており、アジア諸国等の市場拡大と多様化が不可欠であると述べた。また、当地エル・pais紙は、ミレイ・アルゼンチン大統領がメルコスールを通じた対外交渉を続ける意向を示したこと及びメルコスール加盟国間の関係が改善し前向きな雰囲気醸成された点を評価した。同様に、同会合の枠組みで、オルシ大統領就任後初となるミレイ・アルゼンチン大統領との二国間首脳会談が実現し、両国関係が更に前進した点はウルグアイの重要な外交成果であると報じた。

（2）7月の消費者物価指数

7月、ウルグアイの消費者物価指数（過去12か月間の合計）は4.53%を記録し、前月の4.59%から僅かに低下した。冬物セールの影響で、衣料・履物の値段が低下した他（先月比-2%）、政府が7月から実施したプロパンガス料金の値下げの影響で、水道光熱費も低下した（同比-0.56%、プロパンガスのみでは-8.

69%)。一方、軽油及びガソリン料金は上昇した(同比各2.23%、0.32%)。なお、昨年同時期の消費者物価指数は5.45%であった。

4 要人往来

(1) 往訪

・ 2日、3日：オルシ大統領、ルベッキン外相、オドネ経済財務大臣のアルゼンチン訪問(メルコスール首脳会合)

・ 6日、7日：オルシ大統領、ルベッキン外相のブラジル訪問(BRICS首脳会合)

・ 9日：ルベッキン外相のマレーシア訪問(ASEAN閣僚会合)

・ 15日～19日：フラッティ農牧水産大臣のグアテマラ訪問(CELAC畜産関連会合)

・ 20日、21日：オルシ大統領、ルベッキン外相、サンチェス大統領府長官のチリ訪問

(2) 来訪

・ 22日：サンチェス・スペイン首相の来訪

(了)